

なかがわ 議会だより

No 127

2019.1

▶発行/中川町議会 編集/議会広報特別委員会



1月7日(月) 消防団獅子舞

主な 内容

- 第5回臨時会【備品購入契約の締結について】
- 第4回定例会【一般質問 3氏】
- 決算審査特別委員会
- 経済常任委員会所管事務調査（中間報告）
- 議会日誌 ● 編集後記

年頭のご挨拶

中川町議会議長 佐藤輝雄



新年あけまして、おめでとうございませう。年明けの三が日は積雪も少なく穏やかな良い天候にも恵まれ、町民の皆様にはお揃いで輝かしい新春を御健勝にて迎えられましたことと存じ、心からお慶び申し上げます。また、日頃から議会の諸活動に對しまして、深いご理解を頂いておりますことに、感謝を申し上げる次第であります。

昨年は全国的に自然災害の多い年でありました。道内においても9月6日に「胆振東部地震」が発生し、道内全域が停電になる「ブラックアウト」が史上初めて起きるなど、甚大な被害をもたらしました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災地の速やかな復旧復興が図られます事を願うものであります。さて、昨年の議会活動を振り返りますと、地方創生に係る主要政策事業については、常任委員会での所管調査や特別委員会に付託した案件等について審議を通じて、町に對し意見提言を行って参りました。いづれも今後の住民生活や街づくり・地域の産業振興等に係る案件であり、引き続き議会活動の中で取り組んでまいります。

また、地方議会の大きな課題として、議員のなり手不足の問題が提起されています。共同通信社の全国アンケートにより、約900ある町村議会の59%が感じていると回答し、前回選挙が無投票であった町村議会は、192で前々回の157から増加したとなっております。議員のなり手不足は、地方自治の根幹に関わる問題であり、議会が行政の監視機能や、住民の多様な民意を反映する機能が低下する事が懸念される所でございます。昨年11月21日開催された全国町村議長会において、この問題について議長会として特別決議を採択し、国に對して実現を強く求める要望をしてきたところであります。

今年5月1日より元号が変わる歴史的な節目の年であり、また、統一地方選挙の年でもあります。議会は、責務として与えられた任期中において、その役割をしっかりと果たしてまいらる所存であります。

町民の皆様には、ご健勝で希望に満ちた明るい良い年であることを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

あけましておめでとうございます



後列左から 内山信悟、坂尻栄治、斉藤俊幸、今野大樹
佐藤正、鎌塚一成、佐藤輝雄、小川鉄吉

【事務局】

局長 芦名 勇夫

第五回臨時会

平成30年10月24日招集

平成30年第5回臨時会は10月24日招集され、会期を1日と決し、議案1件を議決し閉会しました。

議案審議結果

【契約】

▼物品購入契約の締結について（平成30年度中川町立診療所全身用X線コンピュータ断層装置購入）【原案可決】

■契約方法：随意契約

■契約金額：1922万4千

円

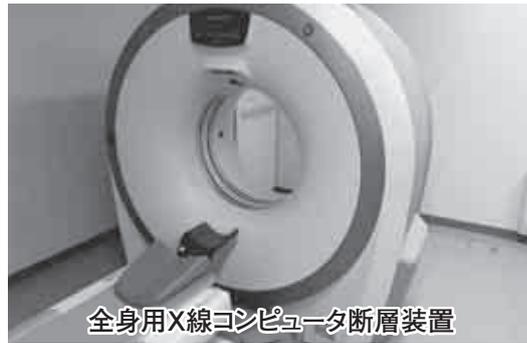
■契約の相手方：旭川市旭神3条4丁目1番8号

株式会社 常光 旭川支店

質疑応答

問医療体制が整っていない中でなぜ今購入なのか？

答現装置は10年経過し、メンテナンスの必要性からこの時期となった。国庫補助の内示もいただき、現医師と地域医療の役割と状況について協議を重ね、当該機種の選定と購入に至った。



全身用X線コンピュータ断層装置

問後任の医師の意見を聞いてから購入すべきではないか？
答機種の選定に対し強い意志を示す医師がいることは認識している。現医師と、使いやすさやコストパフォーマンスなど総合的に考え、この時期にこの機種が最もふさわしいものと判断した。

上川管内町村議会 議員研修会に参加して

平成30年10月23日、当麻町で開催された上川管内町村議会議員研修会に参加してきました。

本年は、元米国森永乳業社長の雲田康夫氏と山形屋百貨店のカリスマバイヤー日高博昭氏（写真）を講師に招いて行われました。

経済という観点からの地域振興を考えるヒントとなる講演であり大変興味深い内容でした。

この4年間、議員として見識を広げる研修の機会を貴重な町費により頂きました事に敬礼を申し上げます。（今野）



山形屋百貨店のカリスマバイヤー日高博昭氏

議会を傍聴しませんか

議会の活性化のために、多くの町民の皆さまの傍聴をお待ちしております。



川口町長次期出馬へ

第4回定例会、小川・斎藤両議員の一般質問で表明

新規就農者への助成手厚く

第四回定例会

平成30年12月12日招集

平成30年第4回定例会は12月12日招集され、会期を2日と決し、3議員の一般質問、認定6件、同意1件、報告2件、協定変更1件、条例2件、予算6件、会議規則4件を議決し、閉会しました。

議案審議結果

【認定】

▼平成29年度決算審査特別委員会委員長報告

・平成29年度中川町一般会計歳入歳出決算認定

・平成29年度中川町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定

・平成29年度中川町介護保険特別会計歳入歳出決算認定

・平成29年度中川町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定

・平成29年度中川町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定

・平成29年度中川町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定
【原案認定】

【同意】

▼中川町教育委員会委員の任命
川村 美和 氏
【原案同意】

【報告事項】

▼専決処分報告（工事請負契約の一部変更）【報告済】

平成30年度山村開発センター解体工事

■契約金額：8672万4千円を8780万4千円に変更

■契約の相手方：中川郡中川町字中川430番地5

株式会社 佐藤工建
代表取締役 佐藤 正樹

平成30年度菅36線道路改良工事

■契約金額：9294万4800円を9531万円に変更

■契約の相手方：中川郡中川町字菅35番地

株式会社 中川建設
代表取締役 吉田 寛

【条例など】

▼職員給与に関する条例の一部を改正する条例
【原案可決】

平成30年の人事院勧告に伴う改正。

▼中川町新規就農者誘致特別措置条例の一部を改正する条例
【原案可決】

経営自立安定補助について、制度資金額の5分の1の限度を3分の1とし、その限度額を1千万円から2千万円に改正。制度資金利子補給対象限度額を5000万円から8000万円に改正。
本条例は公布日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

▼北・北海道中央圏域定住自立圏形成協定の一部を変更する協定の締結 【原案可決】

協定書別表中「福祉」「教育」「産業振興」について改正。
本協定は平成31年4月1日から適用する。

【予算】

▼平成30年度中川町一般会計予算補正

■歳入歳出総額から、それぞれ19,842千円を減額し、予算総額をそれぞれ38億6,591千円とする。
【原案可決】

主な補正内容は、財政調整基金積立金などの追加、西天北五町衛生施設組合負担金・簡易水道会計操出金・道路新設改良費などの減額。

▼平成30年度中川町国民健康保険特別会計予算補正

■歳入歳出総額に、それぞれ8,404千円を追加し、予算総額をそれぞれ2億5,671千円とする。
【原案可決】

主な補正内容は退職被保険者等保険税還付金及び国庫負担金返還金の追加。

▼平成30年度中川町介護保険特別会計予算補正

■歳入歳出総額に、それぞれ643千円を追加し、予算総額をそれぞれ2億4,380千円とする。
【原案可決】
主な補正内容は介護予防・生活支援サービス事業費などの追加。

▼平成30年度後期高齢者医療特別会計予算補正

■歳入歳出総額に、それぞれ756千円を追加し、予算総額をそれぞれ33,498千円とする。 【原案可決】

主な補正内容は後期高齢者医療システム改修費の追加。

▼平成30年度中川町簡易水道事業特別会計予算補正

■歳入歳出総額から、それぞれ18,483千円を減額し、予算総額をそれぞれ3億96,563千円とする。 【原案可決】

主な補正内容は佐久浄水場新築工事・中山間地域総合整備事業負担金などの減額。

▼平成30年度中川町農業集落排水事業特別会計予算補正

■歳入歳出総額から、それぞれ8,246千円を減額し、予算総額をそれぞれ87,741千円とする。 【原案可決】

主な補正内容は人件費・処理施設維持管理委託料などの減額。

【会議規則に伴うもの】

▼経済常任委員会所管事務調査中間報告

■事件
1 産業振興対策の現状と今後の展開について
・ 農業振興政策について
・ 有害鳥獣対策について 【報告済】

▼閉会中の継続調査の申し出（総務常任委員会）

■事件
1 子育て支援施策について
2 防災体制の確立について
3 総務常任委員会に関わる施策について

期限
平成31年第1回定例会まで 【継続調査決定】

▼閉会中の継続調査の申し出（経済常任委員会）

■事件
1 産業振興対策の現状と今後の展開について
2 公共施設の今後のあり方について

期限
平成31年第1回定例会まで 【継続調査決定】

▼閉会中の継続調査の申し出（議会運営委員会）

■事件
1 本会議の会期日程等議会の運営に関する事項について

て
期限
平成31年第1回定例会まで 【継続調査決定】

質疑応答

▼平成30年度中川町一般会計予算補正

■問
園体育施設費修繕費の追加補正があるがその内容は？
■答
トレーニングセンターボイラーの配管において漏水が発見されたため、その修繕費。



老朽化が進むトレーニングセンター

■問
園日頃からのチェック体制の整備を改めて求めたい。教育施設のみならず、他の公共施設についても同様である。

当初予算に反映できるようにすべき。

■答
当初予算というのは当然であるが、突発的なものや目視では確認できないものもあることはご理解いただきたい。しかし、その意識は各職員もしっかりと持って対応していく。

■問
園街路灯LED化について、電気料が大きく減となるとの事だが、今年度見込んだ電気料についてはLED化によって低減した金額で予算化したのか？

■答
当初予算における電気料については、これまで通りの計算で行っており、実績に基づき年度末に精査をさせて頂きたい。



LED化が進む街路灯

■問
園公共施設のLED化についてはどうか。

■答
新規施設については意識して対応している。既存の施設は工事が必要なものもあり、コストをかけてコストを低減するという事については検討をしているところである。

▼平成30年度中川町簡易水道特別会計予算補正

■問
園水道ビジョン策定の詳細について説明を。

■答
現在委託期間中であるが、厚生労働省より各自治体で策定するよう指導があり、また佐久浄水場新築にあたってこのビジョン策定が必須となっていることから、現在作成している。内容については、現状分析から課題の洗い出し、将来像の設定し、実現に向けた方策を検討しビジョンを作成する。



問 川口町政2期8年の主要政策の総括について

答 各施策の総括をし、様々な課題を克服し 自足可能なマチづくりに取り組んでいく



小川鉄吉 議員

川口町政2期8年の総括として、国の地方創生は名ばかりで、少子高齢化、人口減少は急速に進み、小規模自治体の未来は見通すことが出来ません。主要なマチづくりの経過を一つ一つ総括し、中川町が生き残る手立てを見出すことが不可欠であると考えます。こうした観点から、次の点についてお伺い致します。

1 川口町政2期8年の総括と課題について

- ・ 農業の現状は離農が止まらず。今後の展望について
- ・ 商工業の現状と今後の展望について
- ・ 地域医療の確保について
- 2 行政組織の検証と問題点について
- ・ 中川町の存続に向けた強力な組織改革について
- ・ 職員の意識改革について
- 3 川口町政3期目に向けた展望について

川口町長

本町農業の現状は、農家戸数の減少が続く、酪農家は平成24年の29戸から21戸に激減

し、生産量も一万トンから八千五百トンに減少。このまま農家戸数が減少していくなら、本町農業は崩壊の一途をたどることになる。現在、第7次中川町農業振興計画により立ち上げた、農業振興センターが農業振興公社として動き始め、自給飼料の供給体制の充実、担い手対策、農地保全事業を進めています。その結果

「中川町で農業に取り組みたい。」との複数の若い就農希望者から問い合わせに、どう応えていくべきかが最も重要な課題となっています。次に「商工業の現状と今後の展望について」。本町の商工業の現状は、公共事業の減少、商店街における高齢化、後継者不足、建設業の廃業や統合により、本町の商工業は大きな変革が求められています。私は「3つの元気」の柱の一つである「元気な産業経済」を取り戻すため、平成24年から「新事業化支援事業」「商工業担い手支援事業」「商工業振興事業」を展開して参

りました。その結果、経営移譲に向けた後継者の確保や町外企業による薬局の開店、地域おこし協力隊卒業後の事業展開、シカ肉処理などの新たな起業、建設業から小売業への異業種参入等、新たに経営体の芽が伸びはじめています。今後の展望として、そのキーワードは「交流と連携」であり、中川町は3つのプロジェクト「世田谷PJ」「エコモビリティPJ」「イノチラツナグPJ」を展開し、「地域ブランド力の強化」と「関係人口の拡大」を目指しております。また、北・北海道の広域連携と共に、地元観光協会が取り組む「水切り大会」や「きこり祭り」などの本町独自の観光事業との連携の中で人の流れを創出して参ります。さらに「イノチラツナグPJ」は、本町が取り組む「森林文化の再生」の中で、新たな森林づくりへ再投資を促すことを目指します。

次に地域医療につきましては、今年10月30日より看護師

不足により、本来の時間外診療や緊急搬送が行えない状況が発生し、町民の皆様にも多大なご心配をお掛けしている事に、設置責任者として忸怩たる思いを致しております。31年度に向けて、この機会に様々な課題を整理し、地域医療の充実を目指して全力をあげて取り組みを進めて参ります。2点目の「中川町の存続に向けた組織改革について」と「職員の意識改革について」一括してお答え致します。中川町まちづくり参加条例の基本理念に基づき、協働によるマチづくりを進める一方「町民の役割」や「行政の役割」を明確に意識した首長の役割として、全職員が町民の意見を的確に把握し、常に創意工夫をしながらその意志を的確に反映させる事が求められております。

職員自らの能力と意欲を高め、公務員倫理の徹底を図り、意識改革に取り組んで参ります。3点目「川口町政3期目に向けた展望について」お答え致します。

2期8年の中で「3つの元気」のマチづくりに向けて取り組み、一定の方向性は見えて参りましたが、まだ道半ば

であり、多くの課題を明確にし、住民の審判を頂きたく3選に向け決意を固めたところであります。直面する地域医療の確保に万全を期す覚悟であります。

再質問

農業の振興は畑作も含め、中川町ブランドの構築は不可欠ではないか。

川口町長

総合振興計画策定の中で、中川町の様々な魅力を生かすマチづくりを求めていきます。

再質問

中川診療所の体制整備は、4月までに間に合うのか。

川口町長

現時点で明確に申し上げる段階ではございません。各関係機関と様々な協議を進めています。中川町の地域実態を良く理解して頂ける医師の確保をすべく、全力を挙げて取り組みますのでご理解ください。

再質問

中川町の行政組織の不祥事の撲滅と組織改革について。

川口町長

町民に対して、あるべき行政組織構築のため、万全を期して参りたいと思います。

問 一般質問によって具体的に検討した政策は

答 取り組んだ政策は議会での議論を総合的に検討した結果

間もなく議員として任期が終わろうとしている中で、疑問・違和感を持っている部分があり、議会議員でもあった町長に伺う。

1 9月定例会まで、14回の定例会で44回の一般質問が行われ、議員からの政策的提案もあり検討したいという答弁もあったが具体的に検討された内容は？

2 同様に議会の常任・特別委員会の報告により具体的に検討された内容は？

川口町長

この4年間「3つの元気を確かなものに」を旗印に掲げ様々な施策に取り組み事が出来たのも、議会での一般質問の場が町民の皆様への説明の機会となり、議会での政策論議が総合的な判断の拠り所であったからであり、「元気な高齢社会」「元気な産業経済」「元気な人づくり」それぞれの柱に沿って町政を進めてきた。

また、定住化促進を目的とした「新築リフォーム助成事業」は多くの利用を頂き、大きな成果に繋がったと考えている。

施策の一つひとつが、日々の住民の皆様との意見交換や、職員間の政策論議、特に議会における一般質問議論が総合的に検討された結果、具体的な施策に繋がったものと考えている。

2点目についても4年間の議会活動における各委員会活動には、私も深く敬意を表し、常にその結果を重く受け止めており、現在も重要案件が委員会付託されていることから、その結論を注視していく。

再質問

1 具体的に、町政における外部評価の視点を導入していくという答弁が過去においてあったが、現状は？

2 実際に行政内部で検討されたかどうか、一般質問にどれほどの意義があったのか、

町長の考えは？

川口町長

1 庁舎内で行う事務事業評価は難しいが、住民参加条例に基づき、各種計画において関係者や住民の声を取り入れながら、政策に取り入れている。一般質問も含め、様々な議論を総合的に判断するのが首長の責務である。

2 議員の質問の本質を推察し課長会議等で議論しているが、一般質問は○か×を決めることではなく、大所高所からの政策論議をするものであると考える。



今野大樹 議員



安心安全なまちへ

平成27年より町議会議員のほか、上川北部消防事務組合議会議員としても活動させていただきました。

その中で、年2回実施される中川消防団の演習や、平成28年度には中川町で実施された名寄分会消防総合訓練大会など、中川町の安全・安心のため活動される消防職員・消防団員の姿を拝見させていただきました。その姿は真剣で迅速な消化活動を行うために常に全力で取り組み、懇親会でも消防団の活動について白熱した意見交換をするなど、その熱量に感服しました。

昨年末、残念ながら大きな火災が発生し尊い生命が失われました。1月7日に行われた出初式でも触れられ、予防活動の一層の充実を団長以下団員の方々も誓われておられました。

改めて町内の各企業で働きながら消防団でご活躍される団員の皆様に感謝と敬意を表し、本年こそ災害、事故のない一年となる事をご祈念致します。(今野)

問 総合計画の作成および統一地方選挙について

答 住民創意で作成に万全を期する



斉藤俊幸 議員

2014年「日本創生会議」では、北海道は2040年までに80%の市町村が消滅するという衝撃的な試算結果が発表されました。

本町においても少子高齢化、地場産業の低迷、商業機能の低下等が続いており、町の持続可能性を脅かす現実として深刻化し、地域課題になっています。

現在、「第7次中川町総合計画」の策定が進んでいます。同時に町の将来を左右する統一地方選挙も近づいてまいりました。このような観点から次の点について伺います。

- 1 川口町長の3選出馬の意思について
- 2 総合計画作成手順、進捗状況、計画期間等について
- 3 農業政策（特に新規就農者誘致条例、薬草試験栽培等）について
- 4 土地政策（空き家、空き地、所有者不明土地、森林の荒廃等）について

川口町長

1点目についてお答えします。事前の質問にも答えています。過去8年間掲げ進めてきた私の政治信条や政治姿勢が、町民の皆様にごのよう評価いただけているのか、3度信を問う所存であります。

2点目の総合計画については、町民有識者11名で構成する「第7次中川町総合計画審議会」を設置すると共に、18歳以上の全町民を対象にアンケート調査を実施し、町民の意向把握に努めてきたところです。

また副町長をトップにした職員で構成する「総合計画策定委員会」を立ち上げ、アンケート調査の分析や国や道の資料収集に努めてきました。審議会における検討も最終段階を迎え、来年2月に答申を頂く予定になっています。

再質問

総合計画における外部意見について

総合計画は、時代の動きや、そこに置かれている本町の正しい現実の姿を知る必要があります。このために、外部からの意見や助言として大学等の先進的な研究の力や知見を借りてはどうか。

川口町長

国内外において激しい変化が続いています。しかし、そうした動きを見ながらも、総合計画は地域の主体性を失うことなく、自ら考え、自ら判断し責任を負うという地域づくりの基本を尊重し進めていく考えです。

再質問

ひとり親世帯の移住・定住対策について

各町村では働く世代の人材が不足し、それが地域産業に悪い影響を与えています。過去の議会でも申し上げましたが、本町としてひとり親世帯の移住定住策を進めてはどうか。

川口町長

この政策については様々な

課題や問題も考えられるが、人材の確保は、企業や事業所が存続していく生命線でもあるので、行政としても真剣に対応していく。

次に3点目の変化に対応する農業政策についてですが、特に酪農にあつては離農に歯止めがかからない現状にあります。こうした危機的な状況に対応すべく、新規就農者誘致特別措置条例の一部改正を本定例会において提案させていただきます。

再質問

薬草栽培について

薬草栽培については、本町の地の利（気候・風土）と国内外の需給事情を踏まえ、トライしていただきたい。変化の激しい時代です。それは先が読めないということであり、失敗もあるということ。失敗を恐れ何もしないということこそ最大の失敗です。

川口町長

薬草試験栽培についてですが、健康志向の高まりや土地利用の有効活用などから事業の可能性は大きいと思われる。総合計画策定の中で関係機関や生産者の意見を聴き、内部協議を進めているところ

です。

4点目の土地政策については、空き家、空き地、所有者不明土地については全国的な問題になっていることから、近年国は法整備を急いでいます。

本町においても、法律の活用や地域住民の意向を伺いながら適切な対応に努めてまいります。

森林については、所有者が明確であるが管理されていない森林、並びに管理者不明の私有林は100件ほどあり、面積は680haほどが明らかになっていますが、あらゆる法律を組み合わせながら持続的な森林経営の確立に向け検討を進めていきます。

再質問

「空き家」「空き地」「放置された森林」対策について

空き家については、老朽化による倒壊の危険があり、空き地についても連動するリスクが深刻化していくことが想定されます。問題を一度に解決できる決定打は、空き家、空き地、森林ともに難しいと思われるが、将来に備え最低限必要な基礎情報を把握しておくことが必要と思われます。

去年の町のお金の使い方は？

平成29年度の中川町の会計決算に関する決算審査特別委員会（委員長 鎌塚 一成）が設置され、10月17日・18日の2日間にわたり審議し、この結果、決算について認定されるべきものと決定されました。

平成29年度 一般会計・特別会計

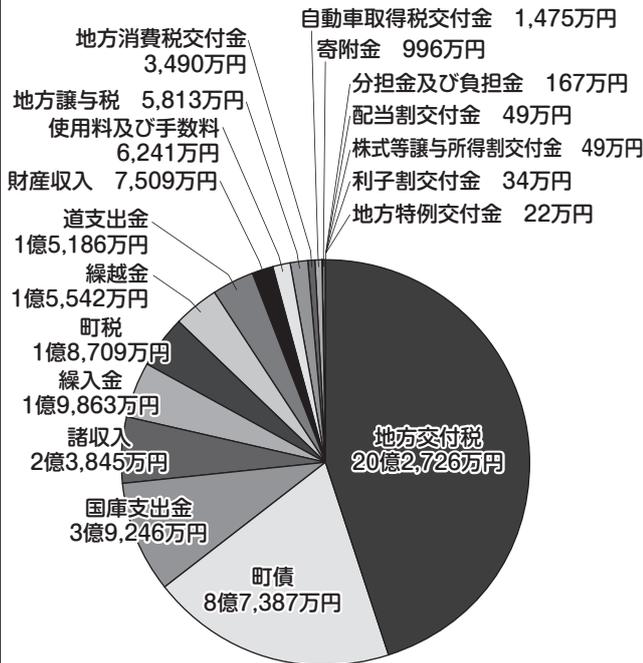
（1万円未満を切り捨てているため、それぞれの総額は異なります。）

区 分	収入済額	支出済額	形式収支	実質収支
一 般 会 計	44億8349万円	43億3241万円	1億5108万円	1億3942万円
国民健康保険	2億6520万円	2億6018万円	502万円	502万円
簡易水道事業	1億7085万円	1億7077万円	8万円	8万円
農業集落排水事業	9470万円	9465万円	5万円	5万円
介護保険(保険事業)	2億2660万円	2億2660万円	0万円	0万円
(サービス事業)	788万円	788万円	0万円	0万円
後期高齢者医療	3115万円	3086万円	29万円	29万円

※実質収支＝形式収支－翌年度へ繰越すべき財源

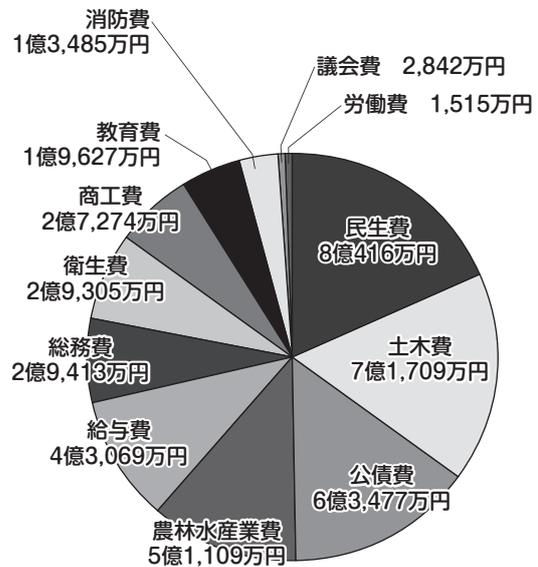
一般会計 歳入内訳

(単位：万円)



一般会計 歳出内訳

(単位：万円)



問 町税滞納における不能欠損処分を行う際に差し押さえ等を実際に行っているのか？
 答 29年度においては行っていない。28年度は確定申告による国税還付金が発生した滞納者については差し押さえを実施している。昨年度は還付金が発生する該当者がいなかった。

問 町税滞納における不能欠損処分を行う際に差し押さえ等を実際に行っているのか？
 答 29年度においては行っていない。28年度は確定申告による国税還付金が発生した滞納者については差し押さえを実施している。昨年度は還付金が発生する該当者がいなかった。

問 町税滞納における不能欠損処分を行う際に差し押さえ等を実際に行っているのか？
 答 29年度においては行っていない。28年度は確定申告による国税還付金が発生した滞納者については差し押さえを実施している。昨年度は還付金が発生する該当者がいなかった。

歳入全般 (一般会計・特別会計)

主な質問事項

平成29年度の事業が適正に執行されているか審査を行い、町当局から各事業の目的や効果について説明を求め、決算を認定しました。

総務課関係 (歳出)

問29年度で新築・リフォームに関する助成が終了したが、今年度この制度に関する要望等が町民からあったか？

答制度があるかという問い合わせは2件ほどあったが、助成制度に関する要望は担当部局としては伺っていない。



寄付100万円超の返礼品「ソリロッカー」

問ふるさと納税に関して、返礼品は納税額の3割以内となっているか、また100万円を超える寄付があったのか。
答町も一部に3割を超えるものがあつたが、現在は全て3割以内としている。100万円を超える寄付については2件あり、カンデイハウスの「ソリロッカー」への申請があつた。

住民課関係 (歳出)

問住民バス運営費が今年度も増加する中で、スクールバスとの併用や今後のあり方の検討は？

答事務事業評価の中で地域交通という大きな課題として今後のあり方を模索している。現在はJR問題もあり、こちらも合わせた在り方を検討しなければならないと考えている。

問住民バスの利用者数は？

答平成27年度、2,985人。平成28年度、2,780人。平成29年度、2,231人。利用者数は減少しているが利用率としては伸びてきている。主にちやいむでの生涯学習活動などで利用が増加している。



地方交通のあり方(住民バス)

問国民健康保険において給付費が28年度は6千万ほど予算補正し1億7千万、29年度は1億7千万の予算から減額補正して1億4千5百万となっているが、変動が大きい理由は？

答ノーベル賞で話題となったがん治療薬「オプジーボ」の投薬が28年度は2名、29年度は1名おり、その価格が高額なことが主な理由。

産業振興課関係 (歳出)

問地域おこし協力隊に関する備品購入の詳細について。

答協力隊事業備品購入70万3,789円については一般的な協力隊員の活動に関する備品購入、有害対策事業備品購入91万4,210円については30年3月末で卒業する隊員の起業支援として支出している。

問有害鳥獣対策における近隣町村との連携協議はされているのか？

答各町村毎で有害鳥獣対策への考え方や取り組みが違う事もあり、過去においては協議した経過はあるものの、今年度含め協議はされていない。

町内、内部の調整を図って体制等が整い次第、近隣町村との協議を進めていきたい。

問中川町企業振興条例、特にリプロベースへの補助金支出について、概算による支出で2回の支払いとなっているが、条例等における根拠は？また同条例における雇用促進奨励に基づく支出は工場の操業日から1年経過後となっているが、3月操業となっているのに12月に支出がされた根拠は？

答条例には概算払いについての記述はないものの、本事業は国の地方創生に基づく地域循環創造交付金を活用し、民間資金や地域資源を活用した事業となっており、適当な時期に適切な支出をしたものです。

また、雇用促進奨励については、町外からの企業であり、事前準備として11月から雇用されていることから、1年を経過しているため支出した。

問ならば他に利用した町内の企業との公平性は？場合によっては行政側の都合の良い解釈をしたことにならないか？

答今プロジェクトを推進するに当たり金融機関、事業主体、町が三位一体として進める上で適切なタイミングで手当てをすることが必要と考え支出してきた。

町長として最終的な判断する根拠として無謬性の原則※に基づいて判断をした。国が交付金の交付決定をし、金融機関も無担保無保証で資金を貸付している事業であり、これまでとは少し違う判断をしたものであり、ご理解頂きたい。

※無謬性(むびゅうせい)の原則

ある政策を成功させる責任を負った当事者の組織は、その政策が失敗した時のことを考えたり議論したりしてはいけないという信念(日本経済新聞引用)



リプロベースの商品開発

【答】決算審査において、本件に
関して詳細に審査した結果、
事務的な取り扱いで一部指摘
するところもあつたが、本事
業を否定するエラーとはなつ
ていない。透明性や規則等の
整備などは監査委員として今
後も注視していく。(斉藤監
査委員答弁)

環境整備課関係(歳出)

【問】街路灯LED化の効果と道
道のLED化への要望につい
て。

【答】29年度より3カ年の事業で
進めており、来年度農村部及
び公営住宅団地内を整備して
終了。電気代や害虫被害の低
減に大きな効果がある。



LED化が進む街路灯

【問】道道については、一部LE
D化が進んでいるが、中心部

は害虫被害のある際に一部消
灯している。防犯面も考慮し
道に対しては引き続き要望し
ていく。

【問】バイパス工事に伴う琴平地
区の道道の線形改良とそれに
伴う町道工事の進捗状況は？

【答】道道については平成35年を
目途に進められている。
町道については来年度完了
予定。



町道琴平バイパス線

【問】町道の維持管理について点
検、パトロールが行き届かず、
町民からの指摘で対応という
事が多々ある。今後の対応
は？

【答】担当者を配置しパトロール
を実施している。側溝の土砂
上げ等は年次的に進めている
ところであるが、緊急性があ

る個所については、状況判断
しながら今後も維持管理を徹
底していきたい。

【問】歌内地区水道事業について
酪農家が1件離農した中で受
益に対する費用対効果は？

【答】指摘のとおり、離農等も
あり当初の思惑通り進んでい
ない部分もあるが、歌内自治
会から、現施設の維持管理が
困難なため、早期整備完了の
要望がされている。町として
もライフラインの確保として
事業を推進していく。

教育委員会関係(歳出)

【問】天塩高校通学用バスについ
て、現在は天塩町が運行して
いるが、今後本町が負担する
ような話はあるか？



天塩町が運行するスクールバス

【問】今のところ、天塩町教育委
員会からそのような話はなく、
現状の形で当面は進んでいく
ものと考えている。



ちやいむアリーナで遊ぶ子どもたち

【問】「ちやいむ」の利用状況は？
また利用者からの備品整備の
要望は？

【答】要望についてはちやいむ連
絡会議の中で都度聞いており、
アリーナの網戸や、手摺、ト
イレ表示の設置を行い、現在
はスポットライトの設備導入
の要望や使用方法の要望等も
ある。

【問】利用状況は、幼児センター
の移転によりアリーナの利用
は大幅に増加しており、その
他視聴覚室の利用が伸びてい
る。他の部屋については概ね
微増。

【問】スキー場に関して、今年度
も含めて整備をしてきている
が、中学校の授業でも使用し
ていない中、今後の整備の考
え方は？

【答】30年度には圧雪車、これま
でもロッジの整備含め実施し
てきた。野外で活動できる場
所は小さくても確保していく
という考えで整備しており、
リフトも含めて十数年は利用
できる状況である。



こども達の利用で賑わう中川スキー場

【問】質疑を終了後、一般会計他
5会計の決算認定について全
会一致で認定されました。

「そば」「有害鳥獣対策」を調査

経済常任委員会 会務調査報告

1 農業振興、特に畑作振興について

中川町において「そば」の作付面積は365・50ha（30年度）で、当町の畑作面積の約55%を占める作物となっている。そのため連作による反収量の低下や連作障害など、今後のそば生産の課題を調査研究するため、農研機構北海道農業研究センター芽室研究拠点で調査を行った。

■そばの連作障害について

通常そばは連作障害が起こりにくい品種とされているが、温暖な地域では「べと病」と言われる病気が発生する事例があり、連作障害による病気の可能性が疑われている。

障害を軽減する方法として

(1) 輪作は麦類、豆類、根菜類それぞれメリットがあり、また緑肥も有効な手段とされている。一方小麦はアレルギーの問題もあり、そばの後作で行うのは望ましくない。

(2) 有機物の施用は、土壌の

物理性の改善が図られることから有効であり、また堆肥の活用（酪農と畑作の連携）を町全体として考える必要があるのではないかと助言を頂いた。

(3) 混植は、そば十赤クローパーを種子の段階で混ぜて植えたり、列で植えることでそばの倒伏を抑えたり、他の雑草の繁茂を抑え、そばの刈り取り後は緑肥としても活用できるなど、有効ではあるが、価格や除草剤の使用制限などの課題もあるとの事。

現在そば生産は3農業法人が行っているが、それぞれの法人が「いくら稼げれば」「いくら取れば」経営が成立すると考えているかが重要で、町の農業政策と併せて輪作体系も含め検討が必要との事であった。



「所感」

今回の調査は「そば」メインで実施したが、農家・法人の経営とはいえ、中川の畑作全体をどうするのか、町・農協・農家がある程度同じ方向を向いて真剣に議論しないと、最終的にそばの収量が落ちてきた場合、輪作もしないまま農地が放置されるような状況が生まれる可能性も否定できない。畑作北限の地、中川の農業の未来への議論が、総合計画の作成に合わせて加速することを期待したい。

2 有害鳥獣対策について

「イノチヲツナグプロジェクト」の進捗、資源の有効利用については町内の大きな関心の一つとなっており、中川町における今後の展開や現状の課題を把握するべく、先進的取り組みを行っている池田町及び指定管理を受けているエゾの杜(株)で調査を実施した。

(1) 池田町の有害鳥獣対策の現況

農業被害額が1,500万円〜2,500万円ほどで推移しており、その大部分がエゾシカによるものとなっている。エゾシカの捕獲数は国の補助や、解体加工施設整備などの機運の高まりがあつて増加傾向にある。

(2) 解体加工施設の設置及びその状況

平成26年設計、平成27年建設、昨年までに外構、備品購入が概ね終了しており、エゾの杜(株)が施設を利用(町保有施設のため使用料が発生)し、施設の維持管理は地域おこし協力隊2名で行っている。

「所感」

「食肉加工として成功若しくは継続しているところと、そうでないところの差は、コ

ンセプトを持っているかが大きい。」という話から、単に時代の流れだから、国の補助メニューに乗ることができないからという行政主導の展開は、企業にとって必ずしもプラスになるとは言えないと思われる。実際に行政主導で行った他町は、1年ほどで経営が困難になったという話も伺った。

今後の中川町が取り組むべきは、ハンターの狩猟意欲を高め、原材料確保が容易にできる環境をどう整えるか、安定的かつ良質なシカ肉を得るための対応策など多岐に渡る課題がある中で、この事業の関係者が課題、問題を共有し、解決していく場を積極的に設けることから始めなければならないと考える。



まちのトピックス

寒波が上空を襲い、冰雪に覆われた1月、恒例の行事が行われました。

成人の日のつどい



中川のワインでカンパニー!!



二十歳の誓い

中川消防出初式



たべないで～



凜として

中川剣道スポーツ少年団寒稽古



つめたーい!!



笑顔で鏡割り

議会 会 日 誌

10月

14日 中央小学校第45回学習発表会

17日 決算審査特別委員会（18日まで）

20日 第14回議員全員協議会
中川村発足60周年記念式典【長野県・中川村】

21日 第10回ながわ植樹祭
中川消防団秋季消防訓練

衆議院議員ささき隆博ふるさと集い【旭川市】

22日 NPO法人環境リレーションズ研究所・中川町「森林整備協定」締結調印式

23日 上川管内町村議会議員研修会【当麻町】

24日 第10回議会運営委員会
第15回議員全員協議会
第5回臨時会

31日 飛騨市との姉妹森協定締結式【岐阜県・飛騨市】

11月

6日 道北地方森林・林業・林産業活性化促進議員連盟
連絡会平成30年度政策研究会【土別市】

11日 幼児センター発表会

15日 第4回総務常任委員会

16日 中川町表彰条例に基づく表彰式

17日 上川北部市町村議会議長道外視察【広島県・兵庫県】（19日まで）

18日 中川婦人会創立70周年記念式典及び祝賀会

20日 上川北部市町村長会議
上川町村議会議長会臨時総会【東京都】

21日 第62回町村議会議長全国大会【東京都】

25日 宗谷本線地域活性化推進協議会【名寄市】

30日 第8回森づくり講演会

2日 自由民主党名寄ブロック「平成30年度政経文化パーティー」【名寄市】

5日 第11回議会運営委員会

6日 上川北部消防事務組合第2回議会定例会【名寄市】

12日 第16回全員協議会

第4回定例会（13日まで）

第6回地域振興経済対策特別委員会

17日 2018「イノチヲツナグ」プロジェクト推進会議

22日 Dive to Haskap

1月

4日 成人の日のつどい
名寄駐屯地新年交礼会【名寄市】

7日 中川消防出初式

17日 上川町村議会議長会監査・役員会【旭川市】

19日 北口ゆうこう道議と語る新春の集い【土別市】

20日 旭川中川会新年交礼会【旭川市】

21日 中川町商工会新年交礼会並びに永年勤続優良従業員表彰式



1月4日 成人の日のつどい

編集後記

あけましておめでとうございます。

思えば近年、気象変動とか温暖化という言葉をよく耳にしますが、昨年を振り返るとひととき気象の異変が続きました。冬のシーズンには、過去数十年の記憶にないような豪雪が続き、6月から7月にかけては低温と多雨・日照不足により農作物等が大きな影響を受けました。

そして、9月6日未明には胆振東部を最大震度7の地震が襲い、北海道全域に及ぶブラックアウト（大規模停電）が発生しました。

厚真町を中心に多くの被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

その夜、多くの方が感じたことと思いますが、全ての明かりと共に音も消えませんでした。あるのは漆黒の空間と彼方に広がる宇宙、そしてそこにきらめく星々の美しさには感動さえ覚えました。

自然の営みは、時に大きな感動や喜びがあります。しかし同時に人間の無力さを感じざるを得ません。

本年こそ町民の皆様にとって幸せな年であることをご祈念いたします。

（俊記）

議会広報特別委員会

委員長 斉藤 俊幸
委員 今野 大樹

